

歴史を生かしたまちづくりファンド スタート記念コンサート



三重奏を熱演する演奏者



コンサート開演の挨拶をする米山氏



曲目紹介をする後藤泉さん



コンサート開催趣旨を述べる宮村会長

2015年9月29日(火)午後7時より、横浜市開港記念会館講堂を会場に「歴史を生かしたまちづくりファンドスタート記念コンサート」が開催されました。後藤泉さん(ピアノ)、クリストフ・エーレンフェルナーさん(ヴァイオリン)、ヘルベルト・ミュラーさん(ヴィオラ)の奏でるモーツァルトやブラームスの流麗なメロディが歴史的建造物である会場の優雅な空間に響きわたり、約130名の聴衆は、その豊かな音色に酔いしれ、楽しい演奏会となりました。

本コンサートは、公益社団法人横浜歴史資産調査会が、私たちの宝である歴史的資産を将来にわたり保存・活用していくことを目的にしたファンドをスタートさせることを記念して行われたものです。ファンドの目標金額は3億円。

今後もこのような催しを企画し、歴史的資産の魅力を感じていただくとともに、ファンドの趣旨にご賛同いただけるよう努めて参りたいと考えております。

「長崎から見る歴史都市横浜とのつながり」

—横浜から学ぶ—

1. 東山手・南山手重要伝統的建造物群保存地区選定 (1991年4月30日)への思い出

長崎市役所時代に10年をかけ長崎居留地である東・南山手地区を重要伝統的建造物群保存地区としてまとめあげた。そこに至った経緯の一つは長崎と共に開港した横浜居留地をよく知るため1988年先進地の横浜市の都市デザイン室や文化財課、横浜開港資料館等へ出向いたことである。横浜の「歴史を生かしたまちづくり」による歴史的建造物の保存と活用、環境整備・都市景観の在り方、そして横浜居留地の資料をもとに多くのことを学び長崎で生かすことができた。

事例として平成元年から4年度にかけて自治省「ふるさとづくり特別対策事業」の採択を受けて往時の石畳・石櫓の復原、ガス灯風街灯、手摺、白い骨材を入れた道路整備、国宝大浦天主堂上付近における眺望公園の新設などを行った。さらに地区内の高さ制限などに協力をお願いするうえからも市民主体の公共空間の環境整備に力を注いだ。

また、保存が危ぶまれる幕末、明治中期の洋風建築物の公有化を行うと共に、以前解体された洋館の移設先を確保しその復原も行った。1992年南山手地区町並み保存センターとして活用を図ったのである。



2. 「長崎の教会群を世界遺産にする会」の活動

長崎県内には戦前に建てられた教会が多数現存(37棟)しており、これらをどのようにして残していくかの課題は山積していたが、行政・専門家は無関心であった。

国の文化財指定の教会は大浦天主堂と黒島・旧五輪教会でこれ以上の指定は難しい状況(国も地域を代表する教会建築のみ)であったし、我が国の文化財保護法では、広く散らばっている建造物を群として捉え指定することができないことから、教会群を世界遺産として保存ができないかを検討するため、さまざまな分野の有志が自

柿森 和年 (長崎の教会群を世界遺産にする会 事務局長)

主的に集い2001年「長崎の教会群を世界遺産にする会」を発足させ、精力的に活動を進めた。特に2004年5月から8月にかけて横浜都市発展記念館が主催した横浜・長崎教会建築史紀行は盛況であったが、その間、私たちも特別協力として講演会を2回実施したのである。このことの意味は、長崎の大浦天主堂ができる3年前、横浜天主堂が献堂されたことと併せ、開港後における横浜と長崎の教会建築史をひもとくことができたこと、また首都圏の方々へ教会群の価値を伝え世界遺産の必要性を訴えることに繋がっていったのである。

その後、教会群が2007年世界遺産登録の暫定リスト入りした直後、五島列島にある江袋教会(明治15年)が火災に遭ったため、元文化庁建造物課長の宮澤智士先生を含め、会から5名が復原専門委員会に加わり3年の歳月をかけて調査・復原し、元の姿に竣工したのである。



この教会は、当地で生まれ隠れキリシタンから司祭になった島田喜蔵【1856】が育った地であり、さらに明治20年【1887】神父となり、初ミサを挙げた教会でもある。

また彼は1867年禁教令下、神学生となり香港、横浜と逃避生活をし、横浜には明治3年から禁教令がとかれた同6年まで、80番(現、中区山下町80番)の横浜天主堂で暮らし、ド・ロ神父らと石版印刷などに従事しながら勉学に励んだ。さらにその間の明治5年に新橋・横浜間の鉄道完通に伴う明治天皇の行幸を近くで見物した人でもあるという。

2016年7月イスタンブールで開催される世界遺産委員会で長崎の教会群と関連遺産の登録が審議されるが、実現されることを期待したい。

最後に、本年1月多くの横浜市民が保存活動を展開されるさなか、日東倉庫日本大通倉庫が取り壊された。横浜の大切な時代の証が消えたのは、保存活動に尽力してきたものとして本当に残念だと心から思う次第である。

<みんなで支える明日の『歴史を生かしたまちづくり』セミナーを開催>

内山 哲久（横浜歴史資産調査会・社員）

平成27年6月24日（水）

主催 公益社団法人横浜歴史資産調査会

共催 横浜市都市整備局都市デザイン室

横浜市は、歴史を生かしたまちづくり事業を推進して今年で27年を迎える。この間、歴史的建造物の登録、認定を積極的にやってきた。その結果、横浜らしさを感じる趣のある都市景観が形成されてきたが、近年になって歴史的建造物の滅失が続き、歴史を生かしたまちづくりの行く末に黄色信号が点滅している。つまり、将来に向けてより強固なシステムの再構築が急がれていると言える。

この機をとらえ、新たな展開を訴求していくには、市民、行政、専門家、企業そして当社団が力を合わせ、連携していくことが一層重要であると考ええる。こうしたことから今回のセミナーの開催に至ったのである。

24日の当日は開港記念会館講堂でセミナーを開催。初めに主催者からの挨拶を公益社団法人横浜歴史資産調査会の吉田綱市副会長、横浜市都市デザイン室綱河功室長からいただいた後、記念講演に移る。記念講演は「もう壊さない！歴史的建造物は横浜の宝」と題して工学院大学工学部教授の後藤治先生からいただいた。後藤先生は

スライドを駆使して、これまでの横浜でのまちづくり推進について講演してきたことのおさらいと共に、もう一度原点に戻ってこれからの考えることを訴える。そうした中から日本の住宅政策の課題や矛盾点、これから必要とされるいくつかの仕組み等、海外事例を踏まえながら語った。そして今必要とされることは建築基準法の特例適用と市民ファンドの創設であると結論づけた。

休憩を挟んで、パネルディスカッションへと進む。パネリストは、鈴木智恵子さん（エッセイスト）、山本博士さん（湘三陽物産代表取締役社長・宮川香山真葛ミュージアム館長）、綱河功さん（横浜市都市整備局都市デザイン室長）、後藤治さん（前出）、そしてコーディネーターを務める米山淳一さん（公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長）により進められた。

パネルディスカッションは、パネリストそれぞれの立場から意見を述べ、壊れるものを支える仕組みが必要、企業の社会貢献とファンドの必要性、ファンド創設の期待といったことを熱く語ってくれた。この話を受けてコーディネーターは早速ファンドを立ち上げ、今後のまちづくりに対しての基金創設を実行していくことを表明し、セミナーを終了した。

多くの参加者たちからも今後を注目していくと共に、ファンドに期待するところが大きいと認識してくれたのである。



記念講演をする後藤先生



コーディネーター米山氏（左）と後藤先生（右）



パネリストの先生方（左から鈴木氏、山本氏、綱河氏）



講演に聞き入る参加者

歴史を生かしたまちづくりファンドがスタートしました!!

『みんなで守ろう 歴史的資産は横浜の宝』を合い言葉に、「歴史を生かしたまちづくりファンド」がスタートしました。

今日では、歴史的建造物等の地域遺産を生かしたまちづくりが全国各地で盛んに行われ、そのまちらしい景観や住環境が生まれています。また、それらは地域の活性化にも貢献しています。

このような仕掛けを我が国で最初に行ったのは、まぎれもなく我が「横浜」です。昭和63年、横浜市が全国に先駆けて「歴史を生かしたまちづくり要綱」を制定し、歴史的資産の保全・活用を積極的に図っていく「歴史を生かしたまちづくり」事業を始めました。その成果は横浜らしい都市景観の創出と賑わいをもたらし、市民が明るく楽しく歩けるまちをつくり上げました。

ヨコハマヘリテイジファンドにも 従来通りご寄付をお願い致します!

ヨコハマヘリテイジでは、横浜をはじめとした国内の歴史的資産の保存活用に向けて、皆様のご寄付をお願いしております。各地に眠っている歴史的資産を地域の宝、日本の宝、世界の宝として、将来に渡り受け継いでいくために、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご寄付を頂いた方には、個人の皆様には、所得税等の控除に使える免税証明書、法人の皆様には法人税の控除に使える税額控除証明書を発行致します。また、金額に応じた記念品を贈呈致します。

【10~90口】(1,000円~9,000円)

・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版

【10口】(10,000円) 下記を1セット

- ・横浜●開港の舞臺-関内街並復元絵圖
(長さ: 10メートルの絵巻物) 絶版品 60 限定
- ・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版



ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明書を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

ところが約30年を経過した今日、由緒ある歴史的建造物の取り壊しが相次いでいます。これ以上、私たちの宝である横浜の歴史的資産を失わないために市民、行政、企業、専門家等が力を合わせ、大きな歴史的資産を守り、次世代へと受け継いでいくための新たな仕組みづくりに早急に取り組まなくてはなりません。その仕組みの柱となるのがファンドです。貴重な歴史的資産の危機に際し、即座に対応するためには、「歴史を生かしたまちづくりファンド」の創設が必要不可欠です。

「歴史を生かしたまちづくりファンド」は皆様方のご寄付によって成り立ちます。横浜を愛する皆様のご寄付をお願いいたします。

皆様からのご寄付は、歴史的建造物等の調査、修理、取得、管理、啓発など、歴史的資産の保全・活用を実現するための事業に必要な資金の一部として使用させていただきます。

【ご寄附を賜った皆様】(平成27年10月16日現在)

【ご寄付を賜りありがとうございます】

【法人】(株)三陽物産 1,000,000円

【個人】小沢朗 100,000円、山本博士 30,000円、後藤泉 30,000円、
米山淳一 30,000円、長谷川正英 5,000円、本多正直 3,000円

【2015年度 賛助会員の皆様】

いつもご支援をありがとうございます

お菓子をとおじて横浜の歴史文化を継承します。株式会社 三陽物産

公益財団法人 はまぎん産業文化振興財団

相鉄企業株式会社

横浜市大倉山記念館

ヨコハマヘリテイジ刊行物のご案内

お求めは下記連絡先の事務局までご一報ください。

A. 都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版 定価: 700円(税込)

B. 都市の記憶-横浜の土木遺産 定価: 1,200円(税込)



A



B

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2015 秋号】 平成27年10月25日 発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号
Tel: 045-651-1730 mail: yh-info@yokohama-heritage.or.jp